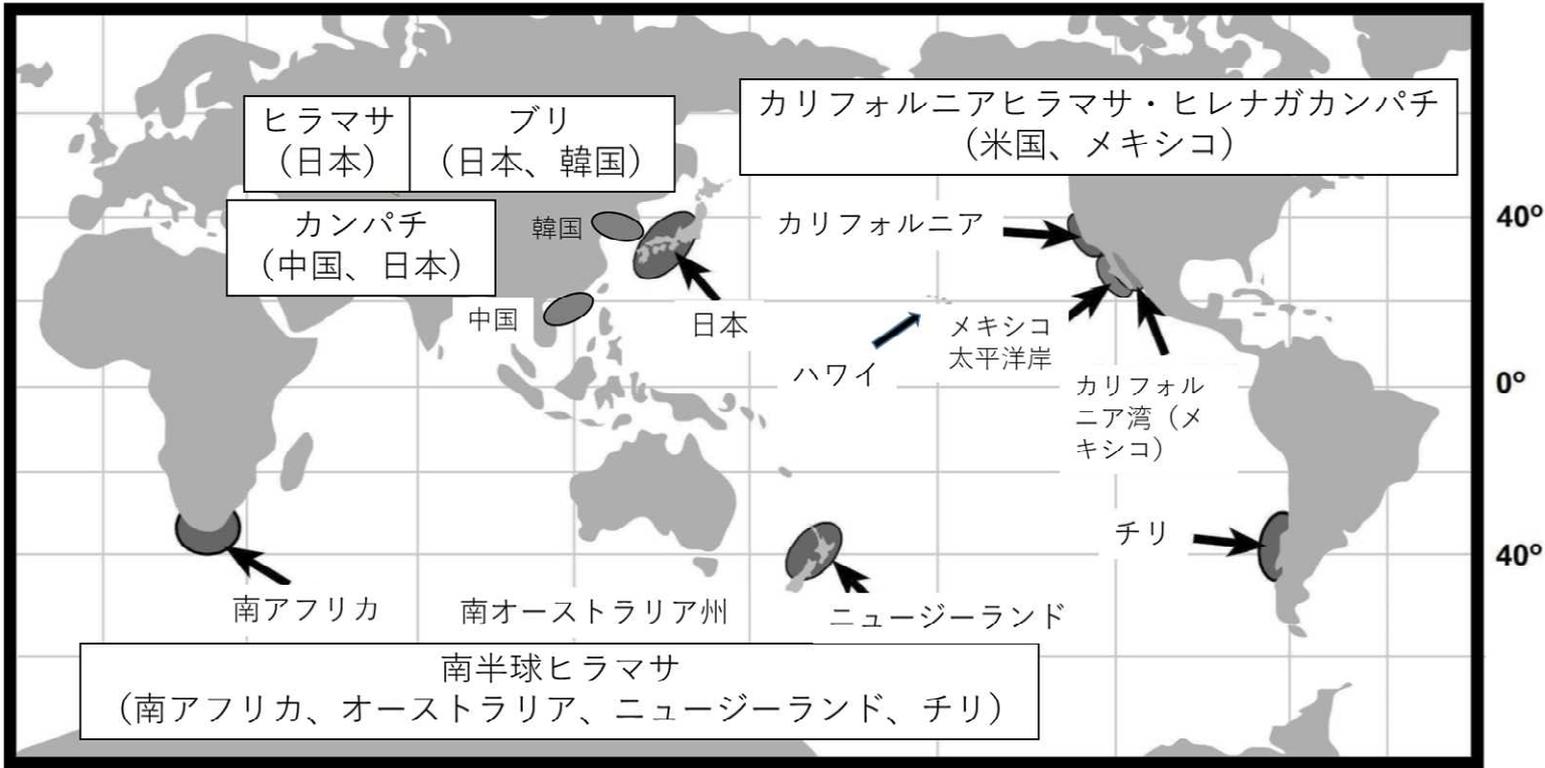


# 世界のブリ類養殖対象種と地域

60° 120° 160° 80°



## 世界のブリ類生産量とその計画

### アメリカ・メキシコ

カンパチファーム社はヒレナガカンパチ養殖をハワイで展開していたが、養殖場の制約や市場への距離の問題から生産拠点を北西メキシコの沖合へ移動。米国の寿司、刺身用ブリ類の需要は年間5万トンでありここで生産されたものは米国市場への供給が主体。カリフォルニア沖でカリフォルニアヒラマサの養殖の計画があり、年間5,000トンの生産を計画。

### オーストラリア

南オーストラリア州で南半球ヒラマサの養殖が1,500トンと生産を伸ばしている。主要な供給市場はオーストラリア、欧州、アジア。

### チリ

ヒラマサ養殖では世界最大規模。ACUINOR社は種苗生産から養殖生産まですべてを閉鎖循環システムで行い周年生産可能で欧州、米国、アジアに輸出している。

### デンマーク

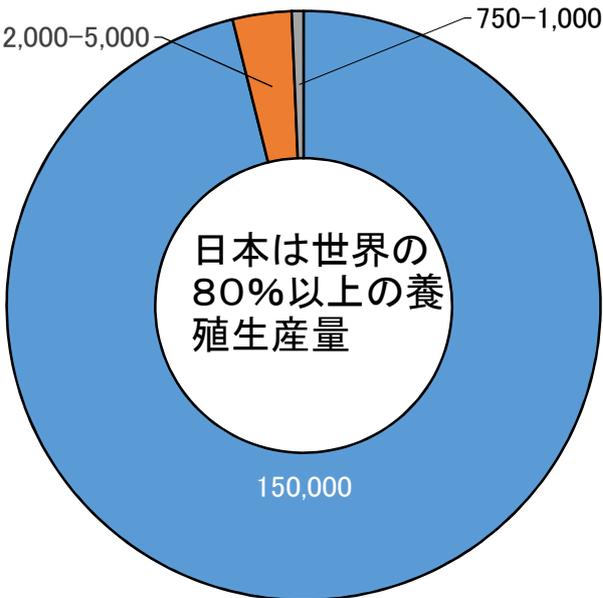
2017年半ばから陸上施設で出荷予定。年間の出荷計画は初期1,200トン、フル稼働で4,800トンを目指す。

### その他

カンパチ養殖は地中海でも注目され、90年代からスペイン、ギリシャ、イタリア、クロアチア、トルコで研究が取組まれている。人工採卵などが難しく、2012年でも生産量は約2トン。一方、マルタでは約500トンの生産。サウジアラビアのNational Prawn Companyは陸上でのカンパチ養殖の計画を進めていて、将来年間3万トンの生産を計画し、日本市場を主なターゲットとしている。

### オセアニア (オーストラリア、ニュージーランド)

### アメリカ



日本は世界の  
80%以上の養  
殖生産量

ブリ類養殖生産量(トン)

■アジア ■オセアニア ■米国

世界のブリ養殖の主要ターゲットは**寿司、刺身**の消費者であり、日本は最大のマーケット。日本のブリ養殖業は国内、国外両市場において世界各国との競争を強いられることになり、その対策が急務。